

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (A小学校 第6学年 1時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は76.2%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は23.8%でした（図1）。また、児童の振り返りシートには、「みんなの『強み』を知ることができて良かった。今日の授業は楽しかった」「友達の『強み』が分かってすごいなあとと思った。また『強み』の学習をやりたい」などの記述が見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。

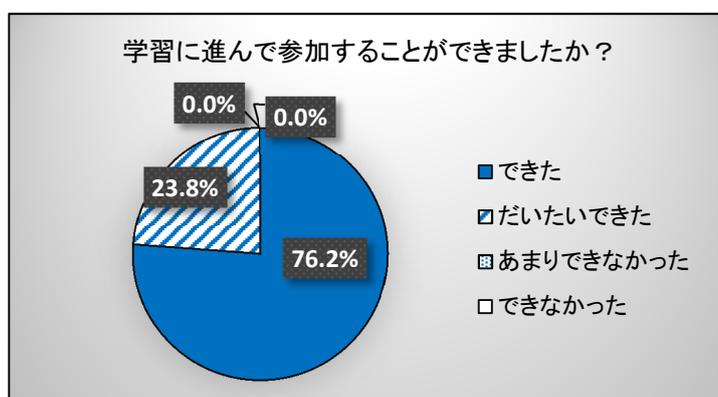


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は90.4%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は4.8%でした（図2）。また、児童の振り返りシートには、「自分の『強み』を友達にしっかりと伝えることができて良かった」「友達の『強み』は知らなかったけれど、伝え合うことで『強み』を知ることができた」等の記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「自分ウェビング」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した児童の割合は4.8%で（図2）、その児童の振り返りシートには、伝え合いに関する記述はありませんでした。しかし、グループの友達と自分のワークシートに、見付けた「強み」を書くことができていたことから、書字による伝え合いはできていたことが分かりました。今後も、このような児童が安心して自分の思いや考えを伝え合うことができるように、伝え合う場面での話型を提示したり個別の言葉掛けをしたりするなどの配慮が必要であると考えます。

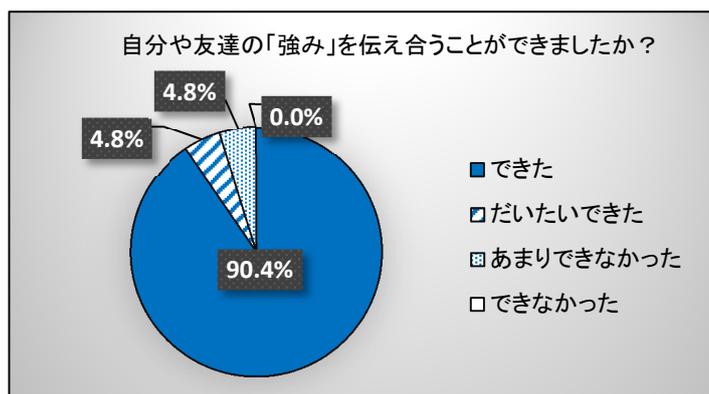


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は80.9%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は14.3%でした（図3）。また、児童の振り返りシートには、「自分の『強み』を知ることができてちょっとうれしかった」「私の『強み』と〇〇さんの『強み』は、水泳が好きというところが同じだった」という記述が複数見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「自分ウェビング」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した児童の割合は4.8%で（図3）、児童の振り返りシートには、「嫌いなのに習い事をしている人もいるなあと思った」と、友達の「強み」に関することのみ記述にとどまっていた。しかし、「自分ウェビング」のワークシートに、友達が見付けた「強み」を基にして、「社会とかを覚えるのは苦手だけどピアノの楽譜を覚えるのは得意」と、自分の「強み」を書くことができていたことから、友達から伝えられた「強み」を受容していたと思われます。今後も、このような児童が自分の「強み」を見付けたり友達が見付けてくれた「強み」を受容したりすることができるように、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

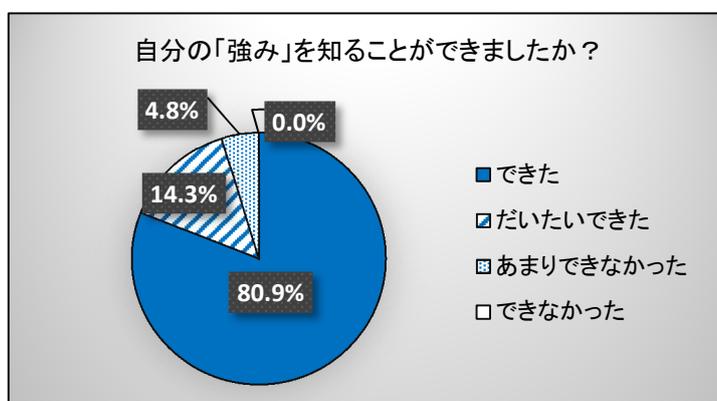


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は 76.2%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は 23.8%でした（図 4）。また、児童の振り返りシートには、「友達の『強み』が分かった。自分と友達の『強み』を比べると、もう少し友達のことが知りたくなった」「みんな苦手なことがいっぱいあった。でも、苦手なことでも進んでがんばっていた」という記述が複数見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

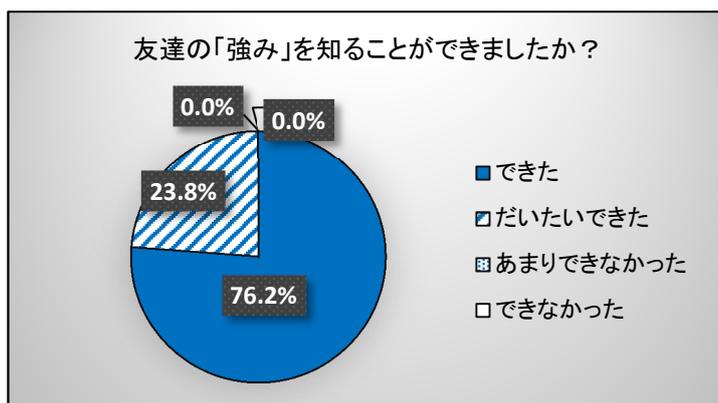


図 4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、ほとんどの児童は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことができたことが分かりました。一方、「学習に進んで参加することができたか」の質問に対して、「あまりできなかった」と回答した児童がいました。その理由として、ウェビングマップを用いた表現方法に慣れていなかったことや「強み」の考え方を理解することが難しかったことなどが考えられます。このことから、児童の実態に応じた指導の工夫や個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。また、「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「あまりできなかった」と回答した児童がいました。その理由として、小学校高学年の発達段階における自己への謙遜の芽生えが考えられます。このような実態から、2時目以降も、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、まず、友達に「強み」を見付けてもらい、それを基に自分の「強み」を見付けることによって抵抗感が軽減すると考えます。これらのことを踏まえ、今後も、様々な教育活動と関連付けながら、自分や友達の「強み」を知ることができるような取組を継続していく必要があると考えます。

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (B小学校 第6学年 1時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は81.6%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は15.8%でした（図1）。また、児童の振り返りシートには、「楽しかったのでまたやりたい」「関心を持って友達や先生の話聞くことができた」等の記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「自分ウェビング」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した児童の割合は2.6%で（図1）、児童の振り返りシートの記述には、「あまりウェビングが書けなかった。自分の『強み』が一つしか書けなかった」とありました。この記述と授業中の様子から、学習に進んで参加できなかった理由として、ウェビングマップを用いて表現する活動に慣れていなかったことや活動方法が正しく理解できなかったこと、数や量へのこだわりが強かったことなどが考えられます。今後も、このような児童が進んで学習に参加することができるように、グルーピングや座席配置、指示の出し方、数にこだわらなくてもよいなどの個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

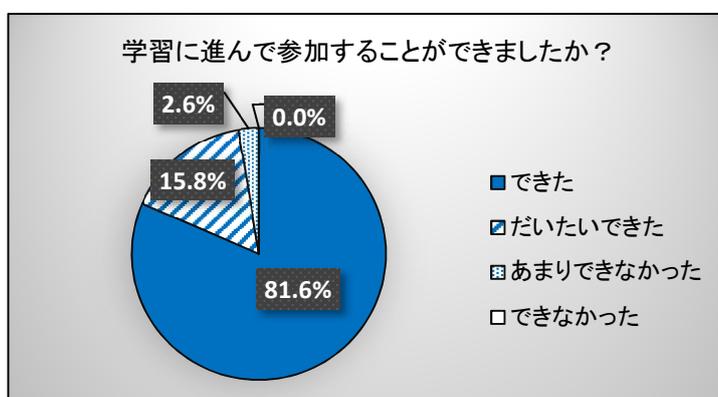


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は84.2%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は15.8%でした（図2）。また、児童の振り返りシートには、「友達の『強み』も伝えられてうれしかった」「グループの人が自分の『強み』を教えてくれたからうれしかった」という記述が複数見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

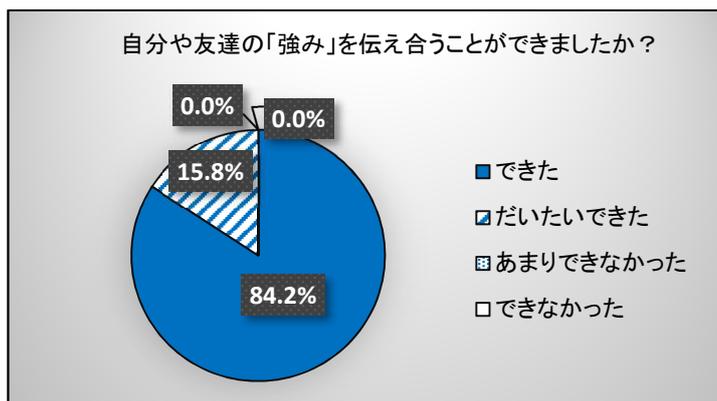


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は84.2%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は15.8%でした（図3）。また、児童の振り返りシートには、「自分だけじゃ分からなかった『強み』をグループの友達が教えてくれた。これが勇気になればすごくいいと思う」「友達が私の『強み』を見付けてくれて良かったと思う。なぜなら、自分の『強み』を知ることによって自分に自信がもてると思ったから」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

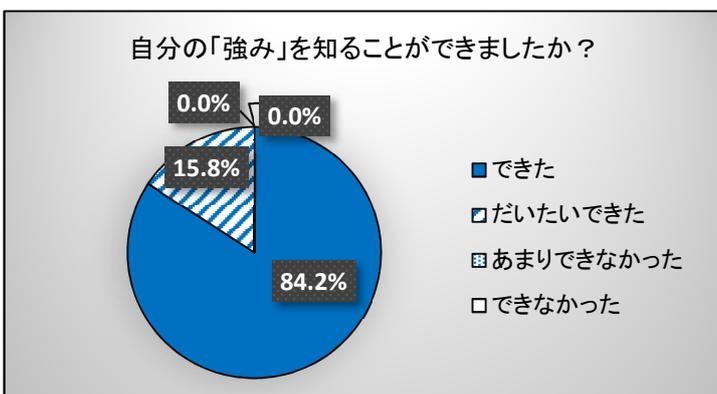


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は92.1%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は7.9%でした（図4）。また、児童の振り返りシートには、「一人一人苦手なことや得意なことがちがうということが分かった。みんな苦手なことでもがんばっていることが分かった」「友達の『強み』を知ることができたおかげで友達との関わりが深くなった気がする」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「自分ウェビング」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

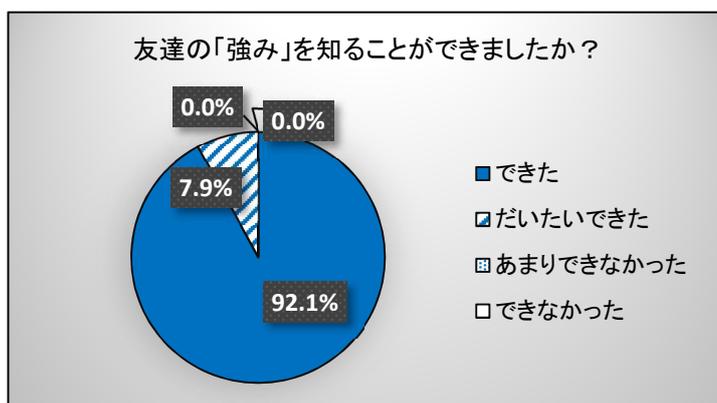


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、ほとんどの児童は積極的に友達と交流し、自分や友達の「強み」を知ることができたことが分かりました。一方、「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「あまりできなかった」と回答した児童がいました。その理由として、ウェビングマップを用いた表現する活動に慣れていなかったことや「強み」の考え方を理解することが難しかったことなどが考えられます。このことから、児童の実態に応じた指導の工夫や個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。また、「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合（84.2%）と、「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合（92.1%）では7.9ポイントの差があり、自分の「強み」よりも友達の「強み」を見付けやすいと感じている傾向が見られました。このような傾向が見られた理由として、小学校高学年の発達段階における謙遜の芽生えが考えられます。そのため、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、まず、友達に「強み」を見付けてもらい、それを基に自分の「強み」を見付けることによって抵抗感を軽減することが重要であると考えます。これらのことを踏まえ、今後も、様々な教育活動と関連付けながら、自分や友達の「強み」を知ることができるような取組を継続する必要があると考えます。